

# 宮崎歴史資料ネットワークの今

粉木郁朗  
Momiki Ikuro

福田泰典  
Fukuda Yasunori

## 契機

2005年に本県を直撃した台風14号。  
この台風による風水害により被災した貴重な歴史資料のレスキューを目的に、宮崎歴史資料ネットワークは活動を開始。

## 周知

レスキューした資料を活用して、フスマの下張り剥がしのワークショップを定期的に開催している。

宮崎市中心部にある「みやざきアートセンター」を主会場として多くの方に活動の様子をご覧いただくことで、地域の歴史を伝える大切な資料が、身近なところに存在していることに気が付いていただけるよう努めている。



## 連携

・2011年、東日本大震災時において陸前高田市でレスキューを行った山形文化遺産防災ネットワークの側面支援を実施(目録のデータ化)。

・2015年、鹿児島歴史資料防災ネットワークとの協働の模索が始まる。

・2016年、以前から交流のあった宮崎県建築士会有志(後のヘリテージマネージャーひむか)と連携し、県内にある解体の必要性が高くなった古建築(主として住宅)の情報交換を始める。この年から、解体される住宅内に残る資料レスキューを実施し、鹿児島資料ネットも参加。熊本地震の際にも宮崎-鹿児島で協働。

・2018年、宮崎-鹿児島での災害時を想定したシミュレーションDIGを開始。以後、毎年実施。



高鍋町でのDIG

## 近況報告

### 門川町A家資料の保全活動

～ 2023.7.29の活動記録 ～

#### ◆ 資料の所在と性格 ◆

A家は宮崎県北部の東臼杵郡門川町(旧門川村)にあって海運業、山林経営、漁業等を生業として営み隆盛を極めた。また、西南戦争の際には薩軍の本陣が置かれ、桐野利秋等が逗留した。今回、レスキューの対象となった資料は、幕末から大正期の同家の生業に関わる出納関係資料を中心に、日記、書簡、写真、山林地図などその内容は多岐にわたる。

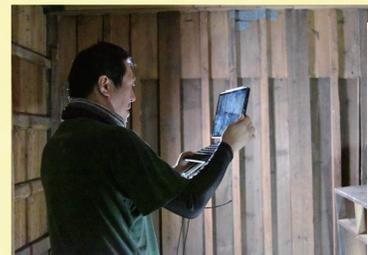
#### ◆ 活動に至る経緯 ◆

敷地内にある明治の中頃に建てられた土蔵の老朽化が進んでいたが、近年、棟木の腐朽が顕著となり屋根全体の崩壊が心配される状況になった。

そこで、歴史的建造物としての保存記録に加え、内部の資料搬出も行い、その資料的価値を早急に確認する作業が必要となった。

#### ◆ 資料保全活動の実際 ◆

資料の一部は事前に搬出されており、2室に分かれた土蔵内部のうち、西側の1室に残された木箱に収められた資料を中心に位置関係等を正確に記録しながら作業を進めた。並行してヘリテージマネージャーの方々、建築的知見から記録も分担していただいた。門川町教育委員会、延岡市教育委員会、日之影町、県文化財課、鹿児島資料ネット、町内の高校生等も加わった作業。地域、世代の枠に止まらず連携の幅を広げて実現した活動に、今後の連携の在り方を探るヒントを得ることができた。



#### ◆ フォトグラメトリの活用 ◆

3Dスキャンアプリ『Scaniverse』を使用した佐藤宏之氏(鹿児島資料ネット)による土蔵内部の3次元データ化の取組。宮崎資料ネットのFacebookで閲覧可能。

## 宮崎／南九州地域のために

南九州は、霧島や桜島などの活火山や近い将来に確実に遭遇する南海トラフ地震の脅威など、数多くの潜在的リスクの上に日常がある。このような環境下において、2018年以来、南海トラフ地震をはじめとする様々な災害を想定してシミュレーションDIGにも取り組んできた。最近では2023年9月に、県央の高鍋町で実施。

このほか、空き家の増加という社会的課題、自治体職員の削減や専門性の確保、次世代の担い手育成など、考えるべき課題は他地域と同様に山積している。宮崎歴史資料ネットワークでは、県内の自治体、各種団体等への協力に加え、隣県の鹿児島歴史資料防災ネットワークとの連携を図りながら、災害等により消失の危機に晒される地域資料の救済と保全に係る啓発活動を地道に継続していきたい。



宮崎歴史資料ネットワーク  
Facebook ページへ！